1. 評 価 結 果 概 要 表

評価確定日　平成19年　10月　1日

【評価実施概要】

事業所番号	2271100841
法人名	企業組合　グループホーム　つどい
事業所名	グループホーム　つどい
所在地 （電話番号）	沼津市鳥谷5-1 05-968-1827

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町　4番1号
訪問調査日	平成19年8月30日

【情報提供票より】（平成19年8月9日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　15年10月15日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	9　人	常勤2 人，非常勤　7 人，常勤換算　5.8人

（2）建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	平屋　造り	
	1 階建ての 1階部分	

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	67,000　円		その他の経費（月額）	高熱水費　11000 円
敷　金	有（　200000　円）		無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　200000　円）		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	400　円	昼食	500　円
	夕食	500　円	おやつ	100　円
	または1日当たり　1500　円			

（4）利用者の概要（8月9日現在）

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1　名	要介護2	1　名		
要介護3	1　名	要介護4	4　名		
要介護5	2　名	要支援2	名		
年齢　平均	85 歳	最低	75 歳	最高	94 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	聖隷沼津病院　羽切医院　東医院　石渡歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

富士山を望む田園の中に立つ1ユニットのホームである。計画作成担当者と代表は夫婦であり、阿吽の呼吸で運営をしている。計画作成担当のご主人は料理の心得があり、毎食美味しい食事が供されている。計画作成に活かす為に職員とのコミニュケーションと記録を重視し水分摂取から排せつまで仔細な観察が記録されている。代表である夫人は主にホーム全般の管理を担当し、パワフルにまた細やかな気配りで利用者の介護に当たっている。職員は夫妻を信頼し意識を統一してチームケアに取り組んでおり、いつでも明るく優しい対応に家族から多くの感謝の声が聞かれた。仏法に裏打ちされたご主人の温かさと夫人の人間らしさが絶妙に絡み合って印象深いホームであった。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

今回は三回目の受審であったが、前回指摘されたことについては出来るところから改善しその取り組みの跡が確認できた。また受審の中での気づきについても、とりあえず実践してみようという姿勢で、利用者へのサービスの向上に繋げるべく前向きに取り組んでいる。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

自己評価票は代表者が作成した。日々の職員とのやり取りの中で話されている事項も多く、参考とした。自己評価も調査当日の聞き取りでも謙虚であり、それだけに目指すものを高く掲げていることが窺がえた。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

運営推進会議はすでに6回開かれており、グループホームについての説明から介護保険制度、災害対策、年間行事など様々な角度から話し合われている。地域委員は重度の利用者が多いことから災害時には、ホームから外へ避難するのでなく、地域住民がホームに救援に来ることなど提案があり、利用者の安全で安心な生活を地域で支える動きが出来つつある。今後小学生がホームに来て利用者と交流する取り組みも話し合われており、運営推進会議が地域密着型サービス確立のための役割を担っている。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

意識して家族と連絡を密にすることを心がけているため、苦情は出ていない。重度の利用者が多いが医師、訪問看護師、家族と連携し職員の手厚い介護により、身体の清潔など良い状態を保っている。家族からはホームの皆様の健康を気遣う言葉もあった。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

開設当初から地域へ快く受け入れられていたため円滑な交流が出来ている。周辺の畑からは収穫物をいただいたり、ホームで必要とする日用品を届けていただいたりする。地域消防団からは、火災以外でも困ったときは連絡するようにとの言葉かけがあり、利用者の安全を地域で守る関係作りが出来ている。また、ホームでも介護相談を受け入れる話が出ているので認知症キャラバンメイトの活動と共に是非実現されるようお願いしたい。

2. 評 価 結 果（詳細）

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「仏性相等しきを尊重し、共に愛しあい、共に生かしあい、共に許しあう支援を提供する」をホームの揺るぎ無い理念としている。理念の実現に地域との協力、交流は欠かせない。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者夫妻は介護の仕事は、それだけではなく奥深い崇高なものであることを常に意識し、折に触れ職員にも尊厳について話している。「ケアは訪問看護師に学び、精神面では管理者夫妻から学んでいる」との職員の言葉を聴くことができた。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の行事に参加している。出来るだけ顔を覚えていただき、ホームにも来ていただけるような関係作りに努めている。野菜や洗剤など届けていただいたり、近所の喫茶店で料金割引をしていただくこともあり、近所の子供達が庭先に遊びに来てくれる。	○	「介護相談」の看板を掲げる案が出て、現在検討中だが是非実現して地域の介護についての基地となるよう希望する。
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者夫妻(以下管理者という)は評価の意義を理解し、評価結果については職員と話し合い、改善すべきは改善し、気づきについては先ず実践してみるという姿勢で臨み、前回評価は大いに活かされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は既に6回開催されている。グループホームについての説明から介護保険制度、災害対策、年間行事など様々な角度から話し合われ、利用者の安全で安心な生活を地域で支える動きが出来つつある。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議では毎回包括支援センターの出席をいただいており、相談ごとも持ちかけて教えていただくこともある。内部研修の際には準備しておくことを尋ねたところ、レジュメを作成してくれ、当日も参加していただき効果的な研修となった。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月写真や近況報告を送付している。管理者はどんな些細なことでも気がついたことは必ず報告することを職員に課しており、それは記録となり、家族への報告となっている。家族アンケートでは回答者全員が「良く報告してくれる」とあった。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に意見や不満についての相談窓口が記載されているが現在までに苦情等はない。コミニュケーションを重要視して家族が訪問の際に話す機会を作る努力をしている。家族からの要望に関しては出来る限り対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は利用者が馴染みの職員から安心して支援を受けることが出来るよう、職員の離職を最小限に抑える努力をしている。管理者は介護の仕事について自他共に厳しく向き合っているが、折に触れての労いの言葉かけや慰労会、労働対価としての報酬などに経営者として配慮している。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員の資格取得を推奨しており、介護関係の参考書等が書架に並べられて自由に利用できるようにしている。弁護士を招いての内部研修や日程が調整できる外部研修に職員が参加できるよう取り組んでいる。訪問看護員の手当てを職員が見学させてもらい日常の手当てに役立たせている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はかつて他のグループホームで働いた経験があり、また勉強会で知り合った事業者と交流を持って情報の交換をしている。	○	他のグループホームを見ることにより多くの気づきを感じ取れ、また交流によってホームの中で行き詰まったときに他の視点からのアドバイスを得ることも出来るので職員レベルでの相互訪問の機会を是非作っていただきたい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者にはホームを良く理解していただく為に昼間と夕方等時間や条件を変えて来て見ていただいている。新しい利用者に対しては1週間はどの職員も細心の注意を払って利用者の思いを理解するよう努めている。その雰囲気を感じていただけているのかこれまでに馴染めなくて心配するような事例はない。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居期間が長い利用者が多く、重度化している利用者もいるが、そういう状況の中でもふとした時に思いがけない感謝の言葉をいただくことがあり、職員は励まされ、この仕事でしか味わえない喜びを感じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、表情やしぐさの中から利用者の思いや意向の把握に努めている。ｻｰﾋﾞｽ担当者会議や毎月のモニタリングの実施、居室でのあるいは食事の時のなにげない会話からその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人や家族からの要望を基に、各利用者担当の職員が毎月介護経過や課題をあげ、他の職員の意見も加味して介護計画を作成している。家族にも介護計画の説明と同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	各利用者担当職員が中心になり日々の状況がきめ細かく記録、報告され、計画作成担当者がその内容を確認し介護計画へ反映している。月に一度利用者ごとのモニタリング、カンファレンスにて状況変化を確認し、毎月現状に即した介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	1ユニットの特性、利点を活かし、通院や送迎等必要な支援はホームにて全面的に対応し、きめ細かく個々の満足を高めるよう努力している。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等と話し合い、かかりつけ医からホーム提携医療機関へ移行し、適切な医療が受けられるように支援している。週1回の訪問診療で利用者の状況に応じたアドバイスを受けたり、訪問看護師の看護、歯科医の往診もされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末に対する対応指針が文書化され、家族と十分な話合いのもと同意を得ている。管理者が24時間常駐し、ホーム・医師・訪問看護師との連携の対応システムが作られ、状態の変化があるごとに、家族の気持ちや本人の思いを汲み取り方針を共有している。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への声かけや対応は、本人の尊厳を最も大事なこととととらえ、一人ひとりの状況に合わせて行われているが、声かけにややぞんざいなところや、トイレの扉が開いていたところも見られた。	○	寝たきりの利用者にも近くを通る職員は必ず声をかける配慮も行われているので、日常の介護の中で、本人の尊厳やプライバシーをどう確保するか、更なる取組みを願いたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームや職員側の優先とならないよう気をつけ、利用者の様子や食事後の居眠りなどを見守り、入浴対応や食事から排泄まで、利用者一人ひとりのペースに合わせた支援が行われている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の楽しさを重視し、季節や地の食材を取り入れ、楽しく、おいしい食事が摂れるよう取り組んでいる。ご主人がフランス料理の経験を持ち、豊富な食器を使用したおいしい食事が供されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴を基本に複数の職員による入浴介助が行われ、一人ひとりの気持ちや習慣に合わせた支援をしている。入浴が出来ない利用者へは清拭によるケアで清潔が保たれていた。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントや日常生活の対話の中から、その方の得意なことや趣味を把握し、活躍の場を提供している。縫い物、塗絵、歌、季節の飾りつけなど楽しみごとややる気を引き出す演出を工夫している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や、本人の気分、希望に応じて、いろいろなコースへ散歩に出たり近くのコンビニへの買い物、ホーム玄関周りのベンチでのお茶タイムや畑の手入れなど戸外へ出る機会作りを工夫している。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開所以来、鍵をかけないケアを当然のこととし、職員の見守りを徹底し、また、一人ひとりのその日の気分や状態をきめ細かくキャッチすることで、日中は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回消防署の協力を得て防災訓練の実施や、運営推進会議を通じて、災害時の地域、自治会の協力が得られるなど関係する人達との輪をより大きくするべく取り組んでいる。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取割合や、時間毎の水分摂取状況をチェック表に記録し、個々の栄養摂取状況が相応しいか見極めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りの植え込みや室内の観葉植物、居間のテーブルの上の涼しげな金魚鉢や季節の花などが飾られ、居室を含めホーム内は掃除が行き届き快適な空間が整えられていた。居室や廊下・居間への段差も無く、要所への手すり取り付け等高齢者への配慮がなされている。また、キッチンからの調理の匂いがするなど、家庭的な雰囲気が感じられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には愛用の桐箪笥や仏壇、家族やホームでの写真、孫の書いた絵などが飾られ、利用者が安心して暮らせる環境が整えられている。		